

Ⅶ 久喜市いちょうの木

1. 実施事業

(1) 定員と利用率

令和6年3月31日現在

事業名	定員	現員	平均利用率
生活介護	40名	39名	90.8%

(2) 利用者年齢構成

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均年齢
生活介護	男性	2	8	9	6	1	0	1	43.2歳
	女性	0	4	4	4	0	0	0	41.4歳
		2	12	13	10	1	0	1	43.0歳

(3) 障害支援区分

		未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	男性	0	0	0	0	9	6	12	27人
	女性	0	0	0	0	1	6	5	12人
計		0	0	0	0	10	12	17	39人

(4) 工賃収入

支給日	4月10日	7月10日	10月10日	1月10日	年間合計
支給額	116,791円	198,973円	183,720円	182,606円	682,090円
平均支給額	1,650円	4,853円	4,593円	4,565円	3,915円
最高支給額	3,300円	5,084円	4,960円	4,941円	4,571円

2. 重点実施事項

(1) 社会参加活動の取り組み

地域等における感染状況を鑑みながら縮小を講じて行事を実施したり、感染リスクが低いと思われる場所を選定しながら小規模による外出を実施した。また、埼玉県が主催する障害者アート展に創作活動の成果として出展した。

(2) 関係機関との連携

家族支援が必要な利用者の対応として行政や民生委員、ソーシャルワーカー等多職種によるチーム支援を行った。多角的な視点による多様なアプローチを展開することができ、一定の効果は評価できたが、利用者家族の満足度の達成までには至らなかった。

(3) 各種リスク対策の強化

- ・新型コロナウイルス感染症が感染症法上の2類から5類相当に移行になったことから、感染症対策マニュアルの見直しを随時行い、感染状況を見極めな

がら適当な感染対策を講じたものの3月に35名の集団感染が発生した。

- ・利用者の加齢に伴い、咀嚼、嚥下の低下による摂食障害が課題となる利用者が顕著になってきているため、栄養士による内部研修及び摂食指導を複数回実施した。
- ・建物の老朽化による床の摩耗のため厨房の床の張替えを行った。

3. 具体的取組み

(1) 利用者支援

ア 支援方法

- (ア) 本人の意思を尊重した取り組みを具現化するため、意思決定支援会議を実施し職員間での認識や具体的支援方法の共有化を図った。
- (イ) 活動で制作した自主製品や絵画を各種展覧会に出展したり市内の店舗で陳列し販売した。評判も好評で大きな収益源となった。

イ サービスの提供

- (ア) 外出や行事等の予定は立てていたが新型コロナウイルス感染症の拡大時期に重なることが多く予定通りにはいかないことが多かった。
- (イ) 個別支援計画に基づいた支援を心掛け、適時評価を重ねながら支援を行った。
- (ウ) 居宅サービスをはじめとする複数のサービスを利用する利用者が増えてきているため、他サービス機関との連携を密に行い、それぞれの役割分担と総体的評価について課題共有などの認識を深め適切な支援に努めた。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の改善

職員の得意分野を活かした役割を担ってもらうように努め、活動やサービス内容に反映しやすい業務体制を図った。結果、グループ会議や職員会議で意見を発言することが増え職員の自信にもつながった。

イ コミュニケーションの円滑化

職員のマネジメント能力の向上を目指し、一人ひとりが必要な情報収集と状況共有に努めてもらうため、支援体制の一部見直しを行ったが十分といえず、今後の課題として引き続き取り組んでいきたい。

ウ 労働災害の防止

- (ア) リスクアセスメントチェック表を活用し危険個所の早期発見と改善を行った。
- (イ) 車による軽微な事故が増えてきたため、安全運転講習会を実施し基本的な知識を改めて学ぶ機会とした。
- (ウ) ストレスチェック表を活用し、一人ひとりが自分のストレス状態を自覚するように努めた。また日頃のコミュニケーションを通しストレスの原因を探る努力をした。

(3) 人材育成

ア OJT の充実

- (ア) 内部研修を定期的実施し必要な知識やスキル向上に努めた(虐待防止・個人情報保護法・行動障害への理解等)。とりわけ、喫緊の課題となっている「摂食」に関する研修は複数回実施した。
- (イ) グループ会議にてケース検討を行い、意思決定の重要性を重視した検討内容とした。
- (ウ) 職員の朝会夕会で1日の振り返りを行い、情報の共有と支援課題等について確認し早期対応を心掛けた。

イ OFF-J T の積極的な参加

対面形式の外部研修が多く開催されたこともあり、感染対策を優先して積極的な参加はできなかった。

(4) リスク管理

ア 建物、設備等の老朽化への対応

- (ア) リスクアセスメントシートを活用し、危険箇所への対応を速やかに行った
- (イ) 厨房の床等、著しく老朽化が進んでいる箇所は久喜市と協議し改修した。

イ 機能低下が見られる利用者の事故防止

- (ア) ボランティアの鍼灸マッサージ師から利用者の体操メニューの評価を定期的実施した。適切な体操方法について助言いただいた内容について職員間で共有し実践した。
- (イ) 安全な食事の提供を心掛け、毎月の給食会議において機能に変化のある利用者の食事形態について確認し対応した。

(5) 事業運営

ア 利用率の向上

※昨年度比：-2.5%

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	21	21	22	21	22	21	22	21	21	20	20	21	253
延利用数	819	815	861	787	812	757	807	775	776	731	545	702	9,187
利用率%	97.5	97.0	97.8	93.7	92.3	90.1	91.7	92.3	92.4	91.4	68.1	83.6	90.8

イ 土曜開所の実施

※昨年度比：-9人

月別	4月	5月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	27	27	26	25	35	26	27	13	24	230

ウ 夏季期間中の開所

夏季日課は8月14日～18日までの5日間で利用率は78.5%だった。